特別記事

The 4th Asian and Oceanic Congress on Radiation Protection (AOCRP-4) 参加記 ～ AOARP 活動を中心に～

(一社)日本保健物理学会 国際対応委員会

杉山 大輔^{*1}, 荻野 晴之^{*1}

1. はじめに

第4回アジア・オセアニア放射線防護学会大会 (AOCRP-4) は, 国際放射線防護学会 (IRPA) の地域組織であるアジア・オセアニア放射線防護協議会 (AOARP) の4年毎の定期会合として, 2014年5月12日～16日の日程にわたり, マレーシア・クアラルンプールの Putra World Trade Centre で開催された。第1回の韓国ソウル (2002年), 第2回の中国北京 (2006年), 第3回の東京 (2010年) に続く会合として, アジア・オセアニア地区における放射線防護に関する学術的活動の発展を体現するものであった。

AOCRP-4において, 筆者らは, AOARP 加盟学会である日本保健物理学会からの意見発信とともに, AOARP 理事会の運営を行った。本稿では, 会合における AOARP セッションの様子及び理事会で行われた今後に向けた議論等, AOARP 活動を中心に概要を報告する。

また, 本号では, Renate CZARWINSKI 氏 (IRPA 会長) による IRPA の視点からの参加印象記と, AOARP 新会長に就任した Muhamad Lebai JURI 氏 (マレーシア放射線防護学会会長) による今後の AOARP 連携に向けた思いを巻頭言に掲載したので, 併せてご一読いただきたい。

2. AOCRP-4 会合の概要

会議は三つの会場にわたって進められた。研究論文の口頭発表セッションと特別セッション (AOARP, IAEA, IRPA, WHO, UNSCEAR 等) を軸に, 朝のリフレッ

シャーコース (若手や新たに放射線防護分野で学ぶ方向けの講座であり, 日本からも飯本武志先生 (東京大学), 吉田浩子先生 (東北大学) が講師を担当された), ポスターセッション, 企業展示等で構成された。31 か国から 352 名の参加者を迎え, うち日本からは 47 名が参加した。

口頭発表セッションは, 11 のトピック (① Health effect of Ionizing Radiation, ② Radiation Measurement and Dosimetry, ③ Monitoring Methods, Equipment and Instrumentation, ④ Safety and Security of Radioactive Sources, ⑤ Radiation Protection in Nuclear Safety, ⑥ Radiation Protection in Medical Field, ⑦ Environmental Radiation and Radioactivity (NORM/TENORM), ⑧ Standard Regulation and Education, ⑨ Non-Ionizing Radiation, ⑩ Emergency Preparedness and Response, ⑪ Radioactive Waste Management) に区分して構成され, 合計 65 件の研究論文の発表がなされた。アジア・オセアニアの各国では, 放射線や原子力の利用に事情の違いがあるものの, 必ずしも先進国から情報を提供する, という図式ではなく, 開発段階の経験を互いに共有しながら, 活発な議論がなされていた。

IAEA, UNSCEAR-WHO-IRPA, IOMP-WHO, IRPA 等の特別セッションでは, 放射線防護分野の国際協力, 医療・臨床における放射線防護, 放射線防護における倫理的側面等を話題とし, 国際的共通理解を深める議論に多くの時間が充てられた。たとえば, 近年, 放射線防護については科学に加えて倫理的及び社会的要素の重要性が増していることが強調されている一方, その実践は, 科学に基づく必要がある, との議論があった。

3. 日本保健物理学会からの意見発信等

2013年6月の日本保健物理学会の第46回研究発表会における AOARP セッション「The 1st AOARP Collaboration Program — Issues on Evolution of Radiation Protection Systems after Fukushima Nuclear Accident」に続く第2回の AOARP 協力プログラムとして実施した AOARP セッション「International Voice of the Radiation Protection Profession in Asia and Oceania」では, 日本保健物理学会から, 福島第一原子力発電所事故発生後の放射線防護上の諸課題と復旧の現状, 及び, 日本保健物理学会の福島第一原子力発電所事故に関する第二期提言の取りまとめ状況について報告を行った。各国の発表資料は, AOARP ウェブサイト <<http://www.jhps.or.jp/AOARP/Calendar.html>> に掲載している。IRPA フォーラムの一部として行われたアジア学会の活動紹介のセッションで

Daisuke SUGIYAMA and Haruyuki OGINO; Report on the 4th Asian and Oceanic Congress on Radiation Protection (AOCRP-4) —Focused on AOARP Activity—.

^{*1} (一財) 電力中央研究所原子力技術研究所放射線安全研究センター; 東京都狛江市岩戸北 2-11-1 (〒201-8511) Radiation Safety Research Center, Nuclear Technology Research Laboratory, Central Research Institute of Electric Power Industry (CRIEPI); 2-11-1, Iwado-Kita, Komae-shi, Tokyo 201-8511, Japan. E-mail: daisukes@criepi.denken.or.jp

第1図 AOCRP-4 参加者の集合写真

第2図 AOARP パネルディスカッション

第3図 Young Scientist Award

(JURI 氏 (新 AOARP 会長) から受賞する吉富氏, 右端から CZARWINSKI 氏 (IRPA 会長), 小佐古会長, ALI 氏 (新 AOARP 事務局長))

は、専門家としての役割、公衆とのコミュニケーションをトピックとしたパネルディスカッションに参加した。日本保健物理学会からは、専門的知見とコミュニケーションの接点として、専門家が科学を翻訳する能力を向上する必要性を、福島第一原子力発電所事故に関する提言で抽出した論点を例に述べた。最近の IRPA の動向として、Safety Culture が強調されるところがある一方で、現場に沿った議論が重要であり、そのためには日本（福島第一原子力発電所事故後の対応）やアジア各国（原子力利用の拡大、鉱山関係の被ばく管理）の経験が重要である、との認識を醸成することができた。

各セッションにおいて、日本から多くの研究者が登壇するとともに、ポスター会場においても議論の中心となっている姿が多く見られた。ここでは、日本保健物理学会の若手研究者の活躍について特記したい。AOCRP-3 での導入から続く Young Scientist Special Session においては、参加各国から推薦された若手研究者とともに、吉富 寛氏 (JAEA) が口頭発表を行い、Young Scientist Award を受賞した。さらに、城間吉貴氏 (琉球大学) が優秀ポスター発表賞を受賞するとともに、若手研究会が福島第一原子力発電所事故後に取り組んだ活動をまとめた “Roles of Young Professionals and Students in Radiation Protection Society” と題したポスター発表は、IRPA メンバーの強い関心を引いていた。今後も、このような国際的な場での若手研究者のさらなる活躍を願うものである。また、本会議への参加は、若手研究者への助成対象であった。次号以降、対象者の研究発表を論文として掲載の予定であり、期待いただきたい。

4. 今後の AOARP 活動

第6回となる AOARP 理事会を開催した。次回 AOCRP-5 (2018 年) の開催国については、中国とオーストラリアから立候補があり、審議の結果、全会一致でオーストラリア (メルボルン) に決定した。オーストラリアは、AOCRP-5 誘致成功をきっかけに、IRPA16 (2024 年) にも引き続き立候補したいとのことで、閉会セッションでも宣伝していた。

本会合で任期を終了となる小佐古 AOARP 会長の後任については、今後の AOARP 活動の継続性を鑑み、AOCRP 開催国が開催時から始まる 1 期 4 年間の会長と事務局を担当するという仕組みの合意を形成して、次期会長にマレーシア放射線防護学会会長の Muhamad Bin Lebai JURI 氏を、事務局長に Noriah Bt. Mod ALI 氏を選出した。理事会では、アジア・オセアニア地域における長期的な視点からは、今後予想される、インドネシア、タイ、ベトナム等での放射線防護学会の新規設立を AOARP としてもサポートすることが重要との認識が共有された。

第4図 AOARP 理事会終了後の集合写真

(左から、CASSELS 氏, ALI 新 AOARP 事務局長, HOOKER 理事, 小佐古会長, LIU 理事, LEE 氏 (Cho 理事代理), 杉山理事, 荻野事務局長, JEFFERIES 氏)

AOARP 協力プログラムの今後については、ICRP シンポジウムや ISORD, IRPA 会合等に併せて、AOARP セッションが企画・開催される予定である。

5. おわりに

AOCRP-4 会合は、温暖なマレーシアの気候のようにゆったりとした雰囲気ながらも、各会場の内外で、あつい議論と交流がなされた、充実した国際会議であったものと思う。放射線防護の世界で日本に期待される役割は引き続き大きく、ますますの情報発信と国際協力活動の強化を進めるべきと改めて強く認識した次第である。

最後になったが、AOCRP-4 に参加された研究者の皆様、準備実施にご協力いただいた関係各位に改めて感謝を申し上げたい。

杉山 大輔 (すぎやま だいすけ)

1994 年, (一財) 電力中央研究所に入所。博士 (工学)。放射性廃棄物処分の安全評価, 放射線防護体系に係る研究に取り組んでいる。日本保健物理学会国際対応委員会委員長 (2013 ~ 2014 年度), AOARP 理事 (2013 ~)。

E-mail: daisukes@criepi.denken.or.jp

荻野 晴之 (おぎのはるゆき)

2006 年, (一財) 電力中央研究所に入所。博士 (工学)。放射性表面汚染の線量評価, 生涯がん死亡リスクの計算, 放射線防護体系に係る研究に取り組んでいる。

AOARP 事務局長 (2011 ~ 2014), 日本保健物理学会若手研究会主査 (2013 ~ 2014 年度)。

E-mail: haruyuki@criepi.denken.or.jp